十二月二十一日　全国公民館連合会と公民館振興市町村長連盟の幹部役員は、公民館振興議員懇話会の議員と、赤坂プリンスホテルで朝食会を開き、両会の理事で新潟県連合会長の私も出席。懇話会のメンバーには、坂田道太、奥野誠亮、稲葉修、海部俊樹、内藤誉三郎の現元文相、自民党文教部会の森喜朗、山東昭子正副部会長など、教育熱心な代議士が揃っている。日本をよくするには学校教育だけではだめで、これからは特に人づくり、地域づくりの中心施設たる公民館が大切だ。政府予算の獲得には大いに努力する、と約束してくれる。

十二月二十七日　県の鶴田総務部長に年末のあいさつに行ったら、吉川水原町長が、県営住宅を建ててください、と陳情しているところ。豊栄は人口急増で困っているから、早通北団地に計画してある二、三棟は水原にやりましょう、といったら、総務部長は笑った。私は本気で言ったのだが。

十二月二十九日　年末休暇になってやっと年賀状を書く。今年は市関係の教員の死亡者が多かった。関川長浦中学校長の現職をはじめ、元教員では、佐野三代治長場小校長、石川春男太田小校長、中村文一笹山小校長、農商学校で私と同級の岡一小勤務の山田藏一君。ご冥福を祈りながら、元気で年を越せることをありがたいと思う。

十二月三十一日　市長就任以来の消防長兼務を辞職。消防長は一般職で特別職の市長兼務は違法と知りながら、他にも例が多いので続けてきた。近年大きな市は単独で、小さな市町村は広域消防で専任消防長を置くようになった。新年からは藤田消防署長を消防長兼消防署長にする。

今年は市民の著書を多くいただく。笹山の寺尾智明さんの「果しなき流れの中に」は十六歳で海軍を志願し、太平洋各地に転戦し、近年戦いの跡をまわって戦友を弔った感激の記録。早通南五丁目の飯村修兵先生の「神は愛なり」は、キリスト教会の週報に二年間掲載した九十九編の随想を集録したもので、信仰・教育、人生、社会、富国心など、該博な知識と深い思索から生まれた格調高い珠玉の名文。先生は椋の出身で、鹿児島高等農林卒業、朝鮮総督府、群馬県庁で官吏、県立農林学校教授、水原、栃尾、津川各高等学校長を歴任した人。

昭和五十四年一月一日　豊栄の新年は元旦歩こう会からはじまる。今年は国際児童年。いまおんぶされている赤ちゃんが成人する日、この子どもたちがおとなとなって活躍する日、それはすばらしい二十一世紀です。その日を夢みて一歩一歩力強く前進しましょう、とあいさつ。

一月四日　ご用始、警察署の新年会に出た後直ちに上京し政府予算編成の渦の中にいる。五日夜発表された政府予算原案に、私が直接目的としていた人口急増都市事業費補助かさ上げ予算、公民館建設費補助は要求通り計上。東港水道企業団の特定広域指定（補助金が二倍近くになる）が決定しており、十日まで滞在予定の必要なし。経常費を極力おさえて公共事業にまわす方針で、文部、建設、農林、厚生各省予算の伸びも明瞭で、市の明年度事業も十分できそうだ。二区選出代議士の部屋をまわったが、文教行政の長老稲葉代議士、佐藤新農林水産常任委員長、渡辺新建設政務次官とも、予算決定後、豊栄市関係予算の個所づけに努力してくださるとのこと。

土は語る (9)

旧石器時代の文化

人類がアフリカに出現して自然石をたたき割って使用した単純な石器から、石を薄く剝してそれに刃をつけ種々の用途の石器をつくるまでに約二百万年かかりました。道具の発達につれて狩人が小さな動物や幼獣をとっていたのがマンモスやナウマン象を狩るまでになりました。

人類の最大の発見の火の使用は猿人は不明ですが約二十万年前の原人からです。北京原人が洞穴の中で炉をつくり獣を焼いて食べた跡が発見されています。炉のまわりに獣の骨が散乱していました。この火の発見は人類文化を飛躍的に発展させました。

暖をとって氷河時代の寒さを防ぐ、猛獣をふせぐ、逆に火を利用してとめる、又焼くことによって、堅いものまで食べられる、腐敗を防ぐなど人類の体質まで変化させました。

死者を埋葬したのは約三万年前の旧人からで埋葬地はヨーロッパの西部にも東部にもたくさんみつかりました。死体は横向きにねせひざを曲げ睡眠中と同じ姿勢で安置され貴重品の石器や骨製品が副葬されていました。一万年前の新人になると死体を石で保護したり、生きているようにべにがらを塗って化粧をさせたり貝飾りを並べたりしました。これは宗教心のあることを表したものです。

芸術については旧人はマンモスの牙を卵形にみがいたり貨幣石をきれいに削ったりして装飾品をつくりましたが本格的な美術は新人になってからです。洞窟の野牛馬鹿などを描いた壁画は有名です。フランスだけでも遺跡が七十以上もあります。その年代は二万八千年から一万年前に当ります。石でつくられた彫刻刀で線をほり黒赤黄褐色などの粘土や酸化物を動物の脂肪でねったもので描いています。その芸術は洞窟の奥深く石造りのランプかいまつでもなければ仕事のできない暗い生命の危険のあるところに描かれているので鑑賞用でなく、けががなく狩ができるように、沢山の獣がとれるようにと呪術的な祈りのためのものであるといわれています。壁画に毛皮の衣を着た人間がかかれています。それにより人類史上はじめてからだにぴったり合った衣服、とくに腕と脚を通す衣類を縫うことができたことがわかります。

彫刻も発掘されていますがほとんど十糎位の小さな女性像です。材料は石骨象牙から粘土を焼いて固めたものです。

腕や脚や頭は極端に小さく女性の特徴である胸腹尻などが強調されているので壁画と同じように女性が子を生むことから獣が多くとれるようにと祈りのためのものといわれています。

―品山　佑二記―

前回は〝締きり〟を紹介しましたが、今回は〝糸車〟をとりあげてみました。

木崎の佐藤ヤエさん（八〇歳）は実際に手で回しながらたろも、おらあ糸どり車と言いましたんがね。一軒のうちに一台や二台、必ずあったもんです。女ごしょが三人いれば、三台用意しましてね」

――だれでもできるのですか

「だれでもできますわね。ただし、何でもそうだも上手、下手がありましてね。嫁の来がけは、うまくいきませんで、よくおっこったねぇその点、わあとこのババサは上手らったねぇっし……。下手だとこんにゃ一紺屋―染物屋）へやって布にしようとしても綿にならねんです。でこぼこになってね」

――やり方は

「綿きりでとった綿で〝しの〟というのを作り、糸どり車を回しながら糸を作るんです。この糸は〝くるまかせ〟にかけるんで、つんのぎの山をこさないように、クルクルクルクル回すんです。だいたいの丁場は約十匁（三七・五㌘）ぐらいだったねえ」

――今ごろの時期やるのですか

「ほんだ、冬場の来がけは、うまくいきませんで、よくおっこったねぇその点、わあとこのババサは上手らったねぇっし……。下手だとこんにゃ一紺屋―染物屋）へやって布にしようとしても綿にならねんです。でこぼこになってね」

――やり方は

「綿きりでとった綿で〝しの〟というのを作り、糸どり車を回しながら糸を作るんです。この糸は〝くるまかせ〟にかけるんで、つんのぎの山をこさないように、クルクルクルクル回すんです。だいたいの丁場は、これだけ〝としゅうとめに言われ、十匁たばをあつけられたりして……毎日、夜なべになるんですがね。あんま、眠とて、自分の飲いている坐布団に隠したこともありますて。こんな話もあったてんねっし、昔女が男の家へ行きたくて十匁たばの糸を投げて、男のところへ飛んでいったとか…アッハッハア　おら、そんげことねったろも……」

――布も織ったのですか

「はい、織りました。こんにゃのところへ早く持って行かないと、いい色がつかねんで、朝の三時ごろから、葛塚や内島見の染屋へ走ったもんです。織った布は、ヤマギモン（野良着）やタンモヒキ（田に入る時のモモヒキ）にしましたね」

おりぐ (21) 糸車

写真は〝糸車〟と佐藤ヤエさん（80歳）

やあ!! おげんきですか

元旦あるこう会の最高齢

斉藤豊蔵さん（82歳　正戸）

――元旦あるこう会には、毎年参加ですか

「時々行くども去年はだめでした。この前は黙って出掛けたんで、家のもんは、わからんかったなあ」

――四・三㌔の道、かなり速く歩いたので、若い人でも「4.3キロの道のりもたいしたことはなかった」と元気に語る斉藤豊蔵さん

――丈夫なもんですね

「いや、ずっと丈夫だったんども五年半ばかり前に、手術して、今は人工肛門なんです。そんでも、手術後も畑打ちもしました。今は家のもんに止められて、屋敷の草取りと掃除だけですわ」

――目も耳も達者で

「はあ、魚つりが大好きで、二間半の竿の先がよく見えますわね」

――どの辺まで出掛けますか

「家のもんがあぶないというんで、今は土地亀あたりまで、最近までは濁川や海まで自転車で」

――趣味は、もっぱら魚つりですか

「あったかい時分は、ひまがあれば魚つり、それに旅行に出掛けますわ。子供が神奈川にいるんで、二人で毎年行って、あっちこっち出掛けます。それに敬老号にも、去年は、敬老号の最高齢者で、駅から記念品もらいました」

――なにか健康で気をつけていることは

「今の若いもんは、田んぼへ行くにも自動車だが、できるだけ足を使うようにして、よくよく雨でもねと、毎日自転車で町まで行って来ます。石動神社から駅へ出て、市役所から大回って帰ります。村うちの用達しは歩いてです」

――起床の時刻などは

「今は朝七時、がまんして寝ていて、夏は五時、夜はいつでも八時。そんだども水戸黄門のテレビで月曜は九時」

――酒は

「晩酌は、ぐいのみに二杯です」

「家中健康がなによりですわ、来年も歩きます」といって、老人クラブのお経の勉強会に出て行かれました。

市長の日誌　石井新一